

東濃農林事務所の普及活動状況

令和8年7月

地域農業を牽引する経営体の育成

■県農業大学校学生 先進農家派遣学習出発式で学生を激励

7月21日に(株)エムズで行われた先進農家派遣学習の出発式に出席した。

県農業大学校の先進農家派遣学習は、実社会での農業、農家生活を体験し、経営実践能力の向上と豊かな人間形成を図ることを目的としており、今年度は、畜産学科2年生1名が瑞浪市の(株)エムズにおいて、7月21日(火)～8月23日(日)の期間学ぶ予定である。(株)エムズは、県内で唯一搾乳ロボットや餌寄せロボットなどを導入し、省力化を図った酪農経営を行っている。

出発式の中で農業普及課長は、「(株)エムズの技術や経営を学ぶことはもちろん、姿勢や考え方を理解しようと努めてほしい。暑い中、安全と健康に気をつけて1カ月取り組んでほしい。」と学生を激励した。

農業普及課は、若い担い手を増やしていくために、県農業大学校と協力し先進農家派遣学習の支援をしていく。



【(株)エムズでの出発式の様子】

■水稲・認定新規就農者 経営改善に向け、打合せを実施

7月16日(木)に、多治見市の認定新規就農者の経営改善に向け、関係者で生産施設の現場視察を行い、打合せを行った。

認定新規就農者は、令和4年に就農し、水稲経営を行い、順当に規模拡大を行ってきた。現状の生産施設が手狭となり、今後の規模拡大に向けた新たな乾燥調製施設の投資を計画している。

関係者で生産現場の現状を確認し、非効率な状況であることを情報共有した。乾燥調製施設の整備のため、投資額が高額となることから、今後の経営計画について意見交換を行った。認定新規就農者の生産に関する問題点を整理し、経営計画の具現化に向け、さらに検討していくこととなった。

農業普及課は、認定新規就農者の経営改善に向けた支援を行い、多治見市の主要な担い手として育成していく。



【現場視察】



【関係者による打合せ】